

学習指導要領改訂の基本的な考え方は何か。

学習指導要領改訂の基本方針は、次の3点である。

教育基本法改正等で明確となった教育の理念を踏まえ「生きる力」を育成すること。

知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視すること。

道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

「生きる力」を育成することとは

変化の激しい社会を担う子どもたちに必要な力は、「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力など」の「生きる力」である。(平成8年7月中央教育審議会答申)

今回の改訂においては、「生きる力」という理念は、知識基盤社会の時代において、ますます重要になっていることから次のことを重視している。

生きる力を支える確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた育成

各教科において次のことを重視している。

- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ・ 観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動
- ・ 総合的な学習の時間を中心として行われる探求活動
- ・ 言語に関する能力の育成
- ・ 学習意欲の向上と学習習慣の確立

道徳や体育などでは次のことを明確化している。

- ・ 道徳教育は道徳の時間を^{かなめ}要として学校の教育活動全体を通じて行うものであること。
- ・ 体育については、低・中学年において授業時数を増加したこと。
- ・ 学校における食育の推進や安全に関する指導を総則に新たに規定したこと。